

5 VOCALS



Bill Street

サンフランシスコ出身、小学校では聖歌隊、17才で"サンフランシスコ交響楽団"と共演歴を持つ天才ヴォーカリスト。高校時代はスライ・ストーンバンドで歌い、20代はカルロス・サンタナ、スライ・ストーン、ラリー・グラハムなどと共演、30代は自身のバンド"PURE GOLD"の傍ら、モータウンレコードのキーボード奏者としても活躍。"TEMPTATIONS"のディビット・ラフィンやマイケル・ヘンダーソンとも共演している。



藤田佐奈恵

幼いころから聖歌隊、合唱団に所属、大阪音楽短大声楽科卒業。2003年丸山繁雄氏に師事、2007年NYでJulie Holtzman氏に師事。2008年日本ジャズボーカル新人賞受賞。2014年5月 セカンドアルバム Spring Wind 発売中、東京、横浜を中心に、名古屋、関西、九州など日本各地でライブ活動を展開中、環境問題や震災遺児へのチャリティにも積極的に取り組み、「妊産婦を救うチャリティコンサート」などにも出演。



ayuko

ソウル音楽に興味を持ち中学卒業後カナダへ留学、ジャズピアニストP.Taylorのグループで活動を行う。帰国後、幼少から入門していた和太鼓軍団『武蔵流龍神太鼓』の推薦から、和太鼓奏者として長野オリンピック、ニューヨーク同時多発テロ・チャリティーコンサート・イン・セントラルパークなどに参加。2010年に学習院大学を卒業、翌2011年、NOIジャンルVocal Pop Unit『Little party』を結成。2015年8月、ピアニスト浅川太平と共にファーストアルバム「Can we do it?」をaudio fab recordsより発売。和のリズムと洋のリズムを兼ね備えた異色のボーカリストとして都内を中心に活動中。



早瀬みゆき

「ケネディーハウス銀座」ハウスヴォーカリストとしてデビュー。70年代ロック、ソウル、R&B、ジャズなど幅広いジャンルのヴォーカリストとして活動中、DJとして、FM Fujiのメインパーソナリティー。



齊藤久見子

都内を中心に活動中、新進気鋭のジャズヴォーカリスト。

RIYOKO FUNKY JAZZ BAND



高木里代子 Piano

4歳からピアノを始め、2008年"Inner Jazz Orchestra"オリジナル曲でDMRハウス部門1位。2013年ダイナーズクラブ主催の人気投票で一位を獲得しリーリトナー氏との共演を果たし、彼の主催する"Six String Theory"コンテストでピアノ部門世界4位となる。2014年暮れ、成城学園前「Salone Fontana」にて高木のキャリア初のソロコンサートを、ハイレゾ録音。2015年1月、高木初ソロアルバム「Salone」をリリース、ハイレゾ配信サイト『e-onkyo music』の総合チャート、JAZZチャート、共に第一位を記録し、幅広いジャンルで彼女独自のサウンドを確立している。2015年9月、14th TOKYO JAZZ FESTIVAL東京フォーラム地上広場へ出演。



原とも也 Guitar

1958年横浜出身、音楽一家に育ち、10代よりロック/クラシックギターを経てジャズギターを始める。ニューヨーク、カナダで音楽を学んだ後、父、原信夫率いるビッグバンド「シャープス&フラッツ」でプロとしてのキャリアをスタート、退団後は、フリーランスとなり、ライブハウス、コンサート、テレビ、ラジオ、ミュージカル、レコーディング、など幅広い活動をしている。2010年、「Window Trio Tour featuring Melissa Morgan」ニューヨークツアー。尺八奏者、Bruce Huebnerと「Zui」を結成、CDを発表。2012年親子ギターバンド、「ON」を結成。2014年、CD、「Flower/Pamela MacCarty with Tomoya Hara」を発表



山口マリ A.Sax

幼少の頃よりピアノ、16歳からサクスを始め、音楽大学ではSaxを赤松二郎氏に師事。在学中よりサクスアンサンブルを中心としたグループを結成。クラシック、ジャズ、ポピュラー、ファンクなどの幅広いジャンルで関西を中心に全国各地でライブ活動を展開。2004年ファンクロックバンド「ギタビス」1stアルバム「Gita Peace」をリリース、SANYOのデモソングとして採用される。2008年1stソロアルバム「Letters From Home」をリリース。2012年2ndソロアルバム「Four Seasons」をリリース。ポップゲームス、ケンナヴァロ、アルターナー、ダンシーゲル、などとの共演歴を持ち、ライブ活動、アーティストサポート、スタジオワークなどの活動をしている。



箭島裕治 Bass

2000年に、ジャズピアノトリオ"宴"を結成し2006年迄にCD3枚をリリース、2011年よりゴスペルユニット"Ama Kha"、主宰し、メジャーアーティストのサポート、ラテンジャズやジャズバンドのメンバーとして活躍中。



衣笠智英 Drums

ジャズドラマーの父を持ち、「MI "PIT<Hooly Wood>」に留学、2007年ジャズファンクバンド「Heat Elements」、2009年ラテンジャズバンド「PANDEMIC」を結成、「Pan Village」Steel Pan Orchestraのレギュラードラマー。その他、首都圏と関西エリアで様々なアーティストのドラマーとして活動中。

SPECIAL GUEST

穴吹久男 " 王様のひとりごと " < Solo Drums Overture at 2nd Show >

" Monologue of the King from Drum Opera ARION

ARION, you always disturb me.

Your innocent ambition that has no doubt,

Your immature ideal that does not have any means to betray,

Your frivolous love that makes man's mind blind.

But my dignity as a King cannot match melody of Tour harp,

In that merody man find thing which he is looking for,

And he is dead drunk with it,

In that merody one find joy of life,

In that marody another find courage to fight,

In that merody others find imagination to love,

ARION, you stand at the threshold of Gods,

although you are man.

You are too dangerous !



穴吹久男 Solo Drums

1953年福岡出身、1970年代は与田輝雄さんのレギュラーメンバーに迎えられ、

1980年代に渡米、レッド・ミッチェル、ハーヴィー・ハンコックなどと交流を深める。

1990年代はNYでケニー・バロン(P)ジョージ・ムラーツ(b)ルー・タバキン(Ts/FI)の自己グループを結成、

1995年にカーネギーホール主催によるソロドラムコンサートに、"フライング・バタフライ"で出演。

"平家物語"、"ウィーン発ブラハ"などの作品を発表、

2000年代はアメリカ、ヨーロッパを中心にソロドラムの公演を行っている。

今回の「王様のひとりごと」は、ギリシャ神話を題材としたドラムオペラ"ARION"の序曲。